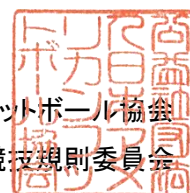


2024年度・公式規則変更予定報

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
競技規則委員会



公益社団法人日本アメリカンフットボール協会競技規則委員会では、現在2024年秋季公式戦から適用される公式規則の変更作業を実施中です。

この「2024年度・公式規則変更予定報」は、本年の公式規則変更を予定している主要項目および主な編集上の変更項目に関して概要を説明し、各競技団体の早めの対応を可能にするために発行されるものです。本予定報に記載している内容は、今後の作業により追加あるいは変更の可能性があります。

*正式には本年7月上旬に発表予定の「2024年度・公式規則変更内容・決定報」で公示いたします。

注*: 当委員会は、NCAA(全米大学体育協会)の競技規則変更内容をベースに変更作業を行っています。NCAAでは、4月下旬に規則変更内容が決定され、その後NCAAの競技規則書発行時に、編集上の変更項目等が織り込まれます。本予定報は現時点の情報をもとに、競技規則委員会で決定されたものです。決定報では、改訂後のNCAA競技規則書を反映し、競技規則委員会が決定したものを公示いたします。

[1]2024年度・公式規則変更予定主要項目

2024年度の公式規則変更として予定している主要項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の()内の英数字は、この変更が行われる予定の公式規則・公式規則解説書における主たる「篇章一条」を表します。

(1) ユニフォーム - 必要な装具、不正な装具の違反に関する罰則の追加

- ☆ 従来、審判員が不正な装具の着用を発見した場合、あるいはプレーヤーが必要な装具を着用していない場合、プレーヤーは最低 1 ダウンは試合から離れなければならない、装具が正当な状態になるまで試合に戻ることはできなかった。チームがチーム タイムアウトを取った場合には、1 ダウン試合から離れなくてもよいが、不正な装具の状態、あるいは必要な装具を着用していない場合は、プレーをすることができなかった。
- ★ 本年より、以下の内容が追加される。1 回目のユニフォームの違反を犯した場合、審判員はフラッグを投げ、プレーヤーが試合から離れることに加え、ヘッド コーチは警告を受ける。その後、そのチームのメンバーがユニフォームの違反を犯した場合、審判員はフラッグを投げ、そのプレーヤーは試合から離れなければならない、タイムアウトがそのチームに課される。チームがタイムアウトを使い果たしていた場合、ゲームの遅延の反則に対する罰則が科される。(1-4-8-b 変更)

(2) 試合中の映像閲覧用タブレットの規定の変更

- ☆ 従来、チームの医務担当者が選手の診断と処置のためにサイドラインで使用する場合を除き、タブレットの使用は禁止されていた。
- ★ 本年より、当該試合中の映像のみを視聴するための標準的なタブレットの使用が許され、以下のガイドラインが適用される。
 - ・ 両チームのコーチング ブースでテレビ等の映像が受信できることについて、試合の運営責任者が責任を持つ。
 - ・ タブレットは「試合中のビデオ」(現在の試合)に限定され、分析、データ、データ アクセス機能、その他の通信アクセスを含むことはできない。その他のビデオ(例:スカウティング ビデオ、練習ビデオなど)は使用できない。
 - ・ タブレットは、コーチング ブース、サイドライン、ロッカールームで使用することができ、他の機器に接続してより大きな映像や追加の映像を映し出すことはできない。
 - ・ ダウン/距離/時間/節/プレー番号/得点などの「試合状況」を表示することはできる。
 - ・ 各チームは 18 台までのタブレットを使用することができ、すべてのチーム関係者はタブレットでビデオを見ることができる。
 - ・ チーム関係者がタブレットを使用して審判員と関わり、ビデオを見せたり確認した場合は、自動的に「スポーツマンらしくない行為」の反則となる。(1-4-11-a 例外 変更)

(3) ハーフタイムの宣言の変更(リプレーによる確認の追加)

- ☆ 従来、インスタント リプレーを採用する場合、第 2 節が終了し、レフリーがハーフタイムを宣言する際にリプレーによる確認は規定されていなかった。
- ★ 本年より、インスタント リプレーを採用する場合、前半終了後、チームがフィールドを離れ、フィールドの審判員およびインスタント リプレー審判員が最後のプレーをクリアし(レビューのために止めないと決定し)、コーチのチャレンジがない場合、レフリーはハーフタイムを宣言する。ハーフタイムの宣言後、前のプレーのリプレーによるレビューを行うことはできない。(例外:インスタント リプレーが採用されない試合においては、公式規則 9-1-3 および 9-1-4 の罰則の項に記載されている、ハーフタイムのターゲットングの反則に対するビデオによるレビューを行うことができる。)(3-2-1-b 変更)

(4) 前後半残り 2 分を宣告するタイムアウトの追加

- ☆ 従来、外部から見ることのできるゲーム クロックを公式の計時装置として使用しない場合を除き、前後半の残り 2 分でタイムアウトをとる規定はなかった。
- ★ 本年より、ゲーム クロックが動いている状態でボールがライブではない場合、レフリーは第 2 節および第 4 節の残り時間がちょうど 2 分になった時点で計時を止め、「残り 2 分を宣告するタイムアウト」を取る。ボールがライブの状態第 2 節および第 4 節の残り時間が 2 分となった場合はプレーを継続し、デッドとなった時点でレフリーは計時を停止し、「残り 2 分を宣告するタイムアウト」を取る。
このタイムアウトの長さは 1 分で、その後にレフリーは 5 秒前の通達を行い、プレー クロックの 25 秒計時を行う。この変更により、第 1 ダウンの計時の規則、ラン、ファンブル、バックワード パスのアウトオブ バウンズ、公式規則 3-4-3-b の罰則施行、すべての 10 秒減算の状況を含む、試合中のすべての計時の変更が「残り 2 分を宣告するタイムアウト」後に有効となる。(3-3-8 変更)

(5) ホース カラー タックルの規定の変更

☆ 従来、タックル ボックス(参照:2-34)の内側にいるボール キャリアおよびパサーとなる可能性のあるプレーヤーに対するホース カラー タックルは、反則ではなかった。

★ 本年より、上記の行為は反則となり、すべての場所でホース カラー タックルは反則となる。

(9-1-15 変更)

(6) スタジアムから離れた場所でのインスタント リプレーの規定の変更

☆ 従来、インスタント リプレーのレビューの実施をスタジアム内のプレス ボックスに限定せず、離れた場所での実施が実験的に許されていた。

★ 本年より、上記の内容が正式に認められる。

(12-4-3 変更)

[2]2024年度・主な編集上の変更内容

2024年度に主な編集上の変更として検討している項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の()内の英数字は、この変更が行われる予定の公式規則・公式規則解説書における主たる「篇章一条」を表します。

(1) 番号の規制の明確化

☆ 従来、プレーヤーがジャージの番号を変更して試合に参加する場合は、レフリーにその旨を報告しなければならなかった。報告を受けたら、審判員は相手チームのヘッド コーチに通知し、レフリーは変更をアナウンスすることとなっていた。番号を変更して報告せずに試合に参加した場合は、スポーツマンらしからぬ行為の反則であった。

★ 本年より、上記に加え、試合当日の選手表(ロスター表)の番号から変更して試合に参加する場合も、レフリーにその旨を報告しなければならない。

(1-4-2-d 変更)

以上